

## 昭和56年度日本気象学会奨励金受領者選定理由書

奨励金受領者 細野正俊（愛知県稲沢市立 高御堂小学校）

研究題目 環境教育への気候学のアプローチ—愛知の気候環境—

### 選定理由

細野会員は、これまで名古屋市を対象地域とした小気候観測の結果から、夏季の不快指数、冬季の酷寒指数、NOx 濃度を基準とする大気汚染度の3つを指標とした気候環境指数を算定し、これを小学校の学区単位に適用して地域の気候環境の評価を試みた。また、この方法を豊田市にも応用し、都市の形態や地域の違いを考慮した気候環境評価を進めて来た。これらの研究は、小学校社会科における地域学習の一環として、地域の気候環境を児童に把握させることを意図したものであり、授業を通して実地に気象教育を実践する試みである。

一方、これまでの細野会員の研究活動は、愛知教育大学の和田道雄会員を中心とする研究グループの中で進められており、その研究成果は「名古屋の気候環境」や「豊田の気候」という出版物に発表されている。この活動は、地域の気候や大気環境を、その地域で生活し教育に携わる人々の手によって解明し、その成果を学校教育や社会教育を通じて広く社会に還元しようとするものであり、気象学の教育と普及に大きく貢献するものと考えられる。

細野会員は、これまで進めて来た小気候観測を、今後さらに愛知県尾張地方に応用し、尾張における学区単位の気候環境の評価を進めようと計画している。この研究を通じて、愛知県下の気候環境に関する研究が一段と進展し、その成果が学校における地域学習の実践に一層反映されるものと期待されるので、本学会はここにその研究の推進を支援するため奨励金を贈るものである。

奨励金受領者 西本洋相（高松地方気象台）

研究題目 海上における霧の予報

### 選定理由

西本会員は、岡山地方気象台、神戸海洋気象台に勤務するかたわら、局地の気象現象に興味を持ち、「肱川あら

し」、「室戸岬周辺海域の海上風分布図」、「海上風分布に及ぼす岬の影響」など解析的研究を行うとともに、「岡山の最低気温の予想」や「海上風の統計的予測法—室戸岬周辺について—」など予測法の研究を行ってきたが、松山地方気象台に転勤するに及び、瀬戸内の霧、中でも安芸灘、安居島の晴霧に注目するようになった。

瀬戸内の霧といえば、来島海峡をはじめ明石海峡、釣島海峡、備讃瀬戸など峽水道の霧が有名で、安芸の霧については従来あまり関心が持たれていなかった。しかし、安居島に設置された霧観測装置のデータによると、1978年の霧の発現回数は年間21回で、そのうち雨を伴わない、いわゆる晴霧が全体の3分の1の7回も観測されていた。西本会員は、雨を伴って広範囲に発現するいわゆる前線霧にくらべ、晴霧は局地的、突発的に発生するためその予測は難しく、それだけに海難事故に結びつきやすい点を考え、この晴霧の発現機構の解明とその予測法の開発を研究テーマにとり上げたのである。

そして1979年6月17日から18日にかけて安芸灘、安居島付近に発生した局地的晴霧について、神戸海洋気象台春風丸、安居島霧観測装置の観測資料をもとにその発現機構の解析を行った。その結果、晴霧は一般流の流入の仕方によって形成される局地的収束域の上昇流によって、低い海水温域上に生じる背の低い送転層の下面に作られた層雲が下層に拡がり、海面に達したものであると推論した。

西本会員はこの推論をより確かなものとするため、今後さらに解析例をふやすとともに、松山地方気象台の弘井一男、鎌倉和夫両氏と協力して手がけた晴霧の予報則の完成をめざし、引き続き研究しようとしている。

この研究は現象が局地的であり、なおかつ観測資料も乏しいので、かなりな困難が伴うものと考えられるが、この種の研究がさらに発展させられるならば、瀬戸内の霧の研究に大きく寄与するものと考え、本学会はここにその研究の推進を支援するため、奨励金を贈るものである。